

活動報告書

報告者氏名： 青木高光 所属： 長野県稲荷山養護学校 記録日： H26年2月 27 日

【対象生の情報】

- 学年： 高等部二年生 女子
 - 障害名： 脳性まひ(知的発達の遅れはない)
 - 障害と困難の内容
 - ・ 上肢の運動機能に障害があり、書字や微細な作業に困難がある。
 - ・ 発語に不明瞭な部分があり、意思の疎通がスムーズに行かないことがある。
- 話し言葉によるコミュニケーション(特に同年代の人と話をすること)に対して不安を持っている。

【活動目的】

- 当初のねらい
 - ・ 過去に使用してきた支援ツールでは十分に達成できなかった、障害を補う道具としての iPad 活用を、主体的に進めて行けるようにする。
 - ・ 進路学習や、校外学習の準備を進める中で、自力で校外活動を計画し、実行する力を育てる。iPad を用いて、事前の情報収集、関係機関との連絡調整、実際の行動の記録、終了後の報告、自己評価を行っていく。
- 実施期間： 2013 年 5 月～2014 年 2 月
- 実施者： 青木高光
- 実施者と対象児の関係： 自立活動の時間の担任。および自立活動専任として担任支援

【活動内容と対象生の変化】

- 対象生の事前の状況
 - ・ 不随意運動があり書くことが困難だった対象生が、昨年度からの iPad の活用で、これまでよりノートテイクが簡単にできるようになった。自分でできることが増え、自信をもてるようになってきている。
 - ・ パソコンと比較して、運用が簡単な iPad に愛着をもつようになり、自分の道具としてもっと使いたい、という意欲が見られるようになってきている。
 - ・ iPad を使えば学習がもっと楽にできそうだ、という思いはあるが、具体的な部分はまだよく分からずにいる。
 - ・ 話し言葉への抵抗感が大きい。聞き間違われぬような方法は無いかと考え、教師に相談している。
- 活動の具体的内容
 - ① 書写すべき内容が多い、国語・英語での活用を更に進める。
→辞書アプリ、VoiceDream の活用。英語の担任と協力し、事前に全ての学習用英文ファイルを Dropbox で共有する。
 - ② クラウドを活用し、情報を共有する。
→県予算で iPad が増えたので、一人一台体制を徹底し、SNS や Dropbox などのウェブサービスを積極的に活用する。
 - ③ 基本機能の理解と活用を深める。
→新生が入ったので、iPad 導入と並行し、アプリ検索や設定のカスタマイズなどについて理解を深める。
 - ④ 意思伝達ツールとしての活用を進める
→思考整理ツール、音声読み上げなどのアプリを試用する機会を定期的に設ける。

○ 対象生の事後の変化

① を通じて

- ① 英語の発音に自信が持てなかったが、VoiceDream を活用することで、自分のペースでリーディングの練習ができるようになり、読みへの自信が高まった。
- ② ソフトウェアキーボードと、スタイラスペンでの書き込みを、場面ごとに使い分けられるようになった。教師が出した課題に、回答を書き加えるツールとして教えた PaperPort Notes を、自発的に手書きメモツールとしても使い、充実したノートテイキングができるようになった。
- ③ 自分で漢字の筆順アプリを入れ、文字を書く事への苦手意識を克服した様子がみられる。



②を通じて

- ① 使用機種が iPad mini になり負担が減ったためか、自発的に持ち歩くことが増え、文書や写真の記録などに、積極的に Dropbox とフォトストリームを活用している。
- ② 昨年作成したクラス全体での Facebook アカウントだけでなく、個人のアカウントも自分で作成し、活用を始めている。卒業した先輩との交流をしている姿が見られる。



③を通じて

- ① アプリの検索や、カスタマイズ方法への理解が深まったためか、自分で必要と思うアプリを探して、インストールする事が増えた。

④を通じて

- ① 初対面の人と話をする時に、内容が誤解されないようにドロップトークを試してみたいと相談してきた。ドロップトークはその使い方には合わないかもしれないこと、事前に書いておけば充分伝わること、その場での入力には一定の時間がかかることなどを伝えながら、相談をしたところ「トーキングエイド for iPad」や「基本の読み上げ機能」などを候補に試行している。
- ② Idea Card や SimpleMind+などのアイディア整理ツールで自分の考えをまとめ、Keynote やロイロノーロなどのプレゼンツールを活用して、クラス内で意見交換や議論をしたり、外に向けての発表を行ったりしている。ツールを活用することで、自分の意見を整理し、自信を持って伝えられるようになってきている。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

過去に活用してきた支援ツールよりも使いやすい iPad を、自分専用の学習ツールにしたことによって

- ①自分にとって更に便利なアプリや使い方を探そうと、積極性に調べるようになり、学習への取り組み方の幅が広がった。
また、それらを使う事で実際に学習内容の理解が深まり、自信も高まった。
- ②ツールを探し活用する中で、自分の苦手な部分(障害から来る不利や経験不足な点)に向き合えるようになった。
将来の進路選択に関わる学習でも活用し、自分の考えがしっかり持てるようになってきた。

・エビデンス(具体的数値など)

- ① 昨年度→ゲームや占い系以外に自分から探したアプリはない。
今年度→自分でインストールして使い続けている学習用アプリが 12 個に
(漢字筆順アプリ、複数の電卓アプリ、Facebook など)
- ② アイデア整理ツールを活用することで、意見をまとめる時間が短くなり、複数の視点を合わせた考えを出すことができるようになってきた。思考を可視化することで、これまでより自信をもって意見を構築できるようになった。「移動」「一人暮らし」などのテーマについては特に、自分の困難点を明確にすることができるようになってきている。発表プレゼンでも、論述部分のスライド数が増加した。

「販売不振商品の売り上げを増やすには？」というブレインストーミング課題。「味の問題」「アンケート調査の必要性」「アンケート対象」など、具体的に問題解決の方法を提案できるようになってきた。



気づき①と②に共通すること

彼女の積極性の高まりや、自己の障害に対する考え方の変化が最も顕著に表れたと思われるのは、以下のような姿からである。昨年度 iPad のソフトウェアキーボードが自分に合っていると分かり(中学部まではポメラを主なメモ手段として活用していた)、以降はそれがメインの書字代替手段になっていた。しかし今年度、補助手段としての iPad の位置づけが大きくなるにつれ、学習内容や用途に合わせて、積極的にモードを使い分けるようになってきた。本来苦手としていたペンによるメモも、iPad の中で情報を一元化して整理するためには便利、と分かる自分から進んで活用するようになった。更に3学期には、Note Anytime に学習プリント(担任が PDF にしたもの)を読み込み、その上に文字入力用のボックスを作成し、手書きやタイプ入力することで、友達と同じプリントを用いながらも、入力方法は自分に合ったものを選択するという使い方もできるようになった。このような姿は彼女の大きな成長だと考えている。



ペンで書いた板書メモ(左)を、試験勉強のためにメモアプリで清書(右)して整理している。ペンの即時性と、キーボードによる検索性、それぞれの利点を活かして使いこなしている。

PaperPort Notes にスタイラスペンで直接書き込む対象生。



写真上部に写っているプリントと同じ物を iPad 内に表示。書き込み用のボックスを自分で作成し、入力している。

以上の支援と並行して、学級担任にも様々な場所で iPad を活用してもらった。二学期末の校外学習（進路学習の一環。自分が希望する進路先に関係した場所を見学する）では特に iPad を積極的に活用し、学習に役立ててもらうことができた。以下、学級担任のレポートを引用する。

【学級担任の校内実践報告より】

進路学習のための校外活動を、自分たちの力で実行してほしいと考え、iPad を活用した。

主に事前の情報収集、関係機関との連絡調整、実際の行動の記録、終了後の報告、自己評価などに活用した。

(1) 事前学習

- ・ 当日の質問項目を話し合い、それぞれ分担し準備を進めた。iPad のメモに質問の内容を記録した。
- ・ iPad を使って路線バスを調べたが、ノンステップバスの運行時刻と見学時刻が合わず、長野駅からはタクシーを利用することにした。長野-須坂間は長野電鉄利用になるので、iPad で連絡先を確認し、駅への介助依頼を自分たちで行った。

(2) 校外学習当日

- ・ 見学先の規定で撮影ができなかったため、話の内容はメモで記録した。

(3) 事後の学習

- ・ 見学してきた内容について、keynote を使い報告用のプレゼンテーションを作った。全員でリハーサルを行い、グループ内で検討した。
- ・ 出された質問に応じて内容を修正し、分からない点は、見学先に電話で問い合わせた。
- ・ このようにして仕上げやまとめのプレゼンを参観日に保護者に向けて発表会を行った。

(4) 生徒の変化


- ・ 1年生は、駅への介助依頼の電話も初めてということもあり、事前に内容をメモし、繰り返し練習して臨んだが、駅側のスタイルで確認されると対応することができなかった。分からない点については、聞き返すことを指導し2回目は、要件を果たすことができた。
- ・ 2年生は、駅への介助依頼も昨年の経験を生かし自分の用件を一方的に伝えるのではなく、相手方の質問に対しても用件を的確に伝えることができていた。もう一人の生徒については、事後の学習にも記したように福利厚生等について、見学先に問い合わせ、通勤手当や保険制度など具体的な部分も理解できるまで聞き返す姿が見られた。



質問したこと

- Q. 高校時代に勉強、体験しておくことよいこと

A. ビジスマナー
挨拶
返事
パソコン



Q. 通勤方法

A. 車、自転車、バス、電車

【引用終わり】

教科学習だけでなく、様々な要素がある校外学習で活用してもらうことで、一人一人の学習が深まった様子が分かる。Keynote は昨年から活用しているが、情報をまとめるツールとして有効で、学習してきた内容を文章、写真、動画、音声を組み合わせて整理することで、欠けていた部分も分かり、内容理解が進んだ。そのままとめをそのまま発表につなげることで、自分の成果の振り返りができることが大きな利点でもある。今後もこのように積極的に外に持ち出し、実社会の中で活かしていくような使い方を進めていきたい。